

- 1 … 2018/2022 FIFAワールドカップへGO!
インターンシップ制度、中学校へ
なでしこリーグW優勝!
- 2 … フェアプレー・規律委員会◆座談会
- 3 … 新潟国体報告
- 4 … 第4回運営会議開催
- 6 … 大会記録
- 11 … 技術委員会より・審判委員会より
- 12 … インフォメーション・編集後記



●発行/発行人：会長・相川宗一 編集人：高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所：〒330-0074さいたま市浦和区北浦和 1-21-18雁ヶ音ビル204号室
Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/ (年間購読料 1500円)

2018/2022 FIFAワールドカップへGO!

12月1日、JFAの犬飼基昭会長が来県し、2018、2022年のFIFAワールドカップ招致に向けて、上田清司県知事と対談した。犬飼会長から協力を求められた上田知事はこれを承諾し、埼玉スタジアム2002を開催地として立候補すると表明した。すでにJFAとしては招致委員会を立ち上げており、2度目の開催に向けて全力を尽くす体制ができた。12月14日に正式立候補申請をおこなった。SFAとしても、しっかりとサポートしていきたい。

写真左から、長沼 威・埼玉県議会サッカー議員連盟幹事長、
野本陽一・埼玉県議会サッカー議員連盟会長、
上田清司・埼玉県知事、犬飼基昭・JFA会長、
横山謙三・SFA専務理事、峯岸光夫・埼玉県議会副議長



インターンシップ制度、中学校へ

前号で紹介した「インターンシップ制度」を利用した大学生の指導者派遣が始まった。記念すべき初日は11月17日、久喜市立久喜中学校で行われ、4人の学生が新人戦前の選手たちと共に汗を流した。この久喜中では、4月からシニアの外部指導者として坂村岱氏も指導しており、更なる相乗効果が期待される。また、戸田市立喜沢中学校など7校で指導が始まった。なお指導者は、プーマからトレーニングウェアとシューズを提供されている。SFAとしてはプーマに感謝し、より多くの指導現場で彼らが活躍してくれるようサポートしていきたい。選手たちの成長が待ち遠しい。



なでしこリーグ^{ダブル}W優勝!

プレナスなでしこリーグ2009ディビジョン1部において、浦和レッズレディースが初優勝を果たした。移管前のさいたまレイナスFCとして2004年に優勝したが、05年以降の移管後では初めての優勝。最終節を待たず、第18節の高槻戦(アウェイ)を3-0で下して決めた。結果的には2位ベレーザを勝ち点で11も引き離した優勝となった。

同ディビジョン2部を戦うASエルフェン狭山FCは、最終節

での劇的な優勝だった。勝者が優勝という最高の舞台、そこで前節まで首位に立っていた伊賀FC(アウェイ)に1-0で勝利し、逆転優勝を果たした。これにより、来年度のなでしこリーグ(1部のみ)への昇格が決まった。

この結果、来年度においては、両チームの同一リーグでの対戦が実現することとなった。埼玉の女子サッカー熱をさらに上げるためにも、両チームのますますの活躍を期待したい。



©浦和レッズ



©ASエルフェン狭山FC

50号記念 フェアプレー・規律委員会 ◆ 座談会

「川崎フロンターレに学ぶ、フェアプレーとは」

出席者：柴崎康之委員長、井口正夫委員、高橋明委員、濱名哲也委員、柏悦郎委員

今年度より名称を従来の「規律・フェアプレー委員会」からフェアプレーを前面に出そうと「フェアプレー・規律委員会」と変更になった。同時に、専門委員会の筆頭委員会となり、SFAの中でもフェアプレーの重要性が高まっている。そんな中、昨年のナビスコカップ決勝の表彰式でのこと、川崎フロンターレの選手の行動が問題視された。このことを受けて、「フェアプレー・規律委員会」としての考えを検証することにした。

「指導者の問題」(濱名氏)

濱名：戦術が変わってきているのと同様、「勝てばいい」からサッカーは変わってきています。実際、FIFAでも「もっとサッカーを支持されたい」と、もっと得点が入るようにオフサイドのルールを変えたり、スター選手の言動にも厳しく対応しています。要は、サッカーという競技が人に認められるためにも、より魅力的にならないといけないということですね。

そういう意味でも、この問題は世間にインパクトを与えたと思います。06年のワールドカップで上川さんが3位決定戦の主審を担当したことで審判への見方が変わりましたが、そのくらい大きなことだと思います。クローズアップされたことはいいことだと思いますね。

柴崎：具体例としてはわかりやすいと思いますね。

高橋：メダルを外すなどのこういう話は、県内、特に社会人でもよく見られる行為です。

井口：ただ、プロとしては勝つことが大事。子供たちにいいプレー、お手本になるプレーを見せなければなりません、勝たないと評価されませんから難しいところですね。

あと気になるのが、監督の審判への抗議です。すごいですよね。審判のレベルがまだまだということもあるのかもしれませんが、それにしても見苦しい。アマチュアの皆さんにも与える影響が大きく「あのくらい(の抗議)はいいか」と思ってしまう。

結局、この件での処分は無かったんですね。

濱名：問題視されたということですね。

柴崎：心の問題ですから。スポーツマンとして、恥ずかしい行為をしたということですね。

濱名：ある意味、処分されたようなものですよ。チームとしての評価を下げたのですから。

柴崎：フロンターレの中で「メダルを誇りにしよう」という選手がいなかったことが寂しいですね。そういう選手がいて、まとめるとチームは強くなると思います。例えば、市立浦和の評判はいい。彼らは、勝っても負けても爽やかだからです。

高橋：精一杯やったら、恥じることはないですからね。そう考えると、フロンターレの10カ条というのは、今さらと思えるんですよ。

井口：実際は、そんなものじゃないですか。平気でアフターで相手を蹴ったりしているわけです。プロと言っても、精神的にレベルが高くない。

柴崎：それが「文化」としての力だと思います。小さな頃から指導者が、心を大事にしていけないといけないということだと思いますね。

濱名：要は指導者の問題。JFAが資格制



濱名哲也委員

度を作ったのは、いい指導をしてほしいからなのですが、その前提としては、心を大事にすることを求めています。まずは、日本のサッカーをよくするにはどうすればいいのを考えないといけませんね。

そして問題は、いかに強くなっていくかです。埼玉が、日本が、我々を含めて、このように書いてあるように接していくことができればいいのです。読めば当たり前ですが、負けてしまうと、気持ちがついてしまうでしょう。

柴崎：体育の授業でも勝ち負けにはこだわりますからね。ただ、みんなで一生涯懸命やったことが最善の喜びであり、それがフェアプレーに繋がると思います。

濱名：そう。そこに感動するから、高校サッカーは見てもらえるんだよね。だから、高校野球でこんなことをしたら、ファンは離れてしまうよね。

柴崎：そういうことを考えると、いい事例だと思いますね。フェアプレーをすることが、どうして価値があるのかを提示したのですから。

濱名：本当にサッカーを素晴らしいものにしたいのであれば、みんなが協力しないとけませんね。

高橋：そこで選手です。もちろん指導する監督、コーチも重要ですが、ゴルフの石川燎、早稲田の斎藤祐樹など見ていても、インタビューの受け答えが上手です。サッカーはただ「応援よろしくお願いします」だけ。サッカーはJFAアカデミー福島で言語能力の指導もしていますが、見習う必要性があると思います。

「情けない」(柏氏)

柏：フロンターレも、永嗣(川島)がいて、中村(憲剛)がいて、代表の中心がいます。もう今年はワールドカップがある中、彼らは日本の中でも第一線で戦っている訳です。そういう選手が2人もいて、恥ずかしいですね。永嗣だって周りに「しっかりやれ」って言えはいいのだから。それができていないのであれば、情けないです。このままだと、日本代表の結果は06年の繰り返しになると思いますね。

柴崎：恩師の言葉なだけに重いね(苦笑)。

柏：例えば、中学生にはできないことがあります。だから、指導者が教えていかなければならないのです。

濱名：そういう経験が少ないからじゃないですか？ もっと怒られていけば違うかもしれないけれど、そういうことも積み重ねていかなければならないのです。

柴崎：Jリーグの中だけでなく、3種、4種にも働きかけてほしいものです。

柏：そういえば、今回の全中(全日本中学校大会)では、試合前後で、選手たちだけでなく、指導者も握手をしてほしいという話になりました。

濱名：いいことですね。私も現役のレフェリーの時、マッチミーティングで両監督に「握手を」とお願いしましたが、なかなかやってもらえませんでした。

高橋：何年か前、技術委員会と審判委員会で話をしたとき、そんなキャンペーンをしようと話をしましたよね。

柏：ならば、フェアプレー・規律委員会から提案しましょう。

高橋：そういえば、横山さんがJFAに対して、フェアプレーに関してですが「埼玉独自のルールを作れないか」と打診したことがあ



柏悦郎委員



井口正夫委員

ります。JFAは「大いにやってくれ」と言っているんですよ。

濱名：ベンチからは、いろいろ言いたくなるんですよ。

柴崎：見苦しいですよ。

濱名：柴崎さんもあるよね。見苦しいよ(笑)。

柏：でかいからね(笑)

全員：(爆笑)

「そのためには審判の技術向上も」(柴崎)

柴崎：こういうことも、各種別に「フェアプレー・規律委員会」があるのですから、それぞれで話し合ってほしいですね。

高橋：それにはやはりキャンペーンでしょう。

柏：10月20日の「フェアプレー・規律担当者研修会」は、評判がよかったじゃないですか。

濱名：指導者に考えてほしいんですよ。だって、彼らが指導した子供たちが、将来的には指導者になるのですから。ですから、勝ち負けそのものが自分の生活にかかっているような指導者では難しいかもしれませんね。まずはフェアプレーが大事なのだと伝えられる指導者でなければ、それができないのであれば、指導者を辞めてもらわなければならないと思います。

柴崎：そのためには審判の技術の向上も不可欠です。例えば、相手を傷つけるようにプレーに対しては、もっと強調してもいいのではないですか。

井口：カテゴリーが低いほど、審判そのものを教えられない傾向もあるでしょう。

柴崎：高校でも「これじゃあ、荒れるよね」という試合もあります。

濱名：そのためには、指導者が審判を育てていかなければ。例えば高体連で審判を作っていく雰囲気を作らないといけないと思います。100人、200人部員がいる高校ならば、そこから審判が10人、



柴崎康之委員長

20人出てもおかしくないのですから。

柴崎：あれこれ文句を言われたら、やりたくないですよ。でも、感謝されたら「やってみようかな」と思う選手も出てくるでしょう。これもキャンペーンとしてやっていきましょう。では、これと入場の際、審判が出てきたら両監督は握手。試合が終わった後にも握手ですね。

柏：あと大会運営者とも握手してほしいですね。試合の後でいいので。

柴崎：種別の委員長に集まっていたら、同意を得ましょう。

濱名：最後は、みんなが輪になればいいのです。

柏：もう一つ、このフロンターレの10カ条は、中学生にもわかりやすいですよ。繰り返して言っていけば、子供たちも受け入れてくれると思います。

柴崎：精一杯やるのが選手たちの充実感となり、それが見ている人に感動を与えます。今後とも、フェアプレーの精神を伝えていこう、皆さんとともに努力していきたいです。ありがとうございました。



高橋 明委員

川崎フロンターレが掲げた「フェアプレー精神10カ条」

- 1、汚いプレー禁止
- 2、報復行為禁止
- 3、審判に従う
- 4、反則を受けても相手と握手
- 5、ユニフォームのすそをきちんと入れる
- 6、交代されたらきびきび動く
- 7、時間稼ぎの倒れ込みをしない
- 8、試合後に整列して感謝
- 9、試合後に相手をたたえ、審判とも握手
- 10、負けても悪びれない

(日刊スポーツ09年11月7日紙面より抜粋)

トキめき新潟国体報告 ～第64回国民体育大会サッカー競技～

少年男子、1回戦敗退。前年度優勝女子は地元・新潟に敗れる

●少年男子

1回戦 埼玉県 0-1 兵庫県

※ 優勝は神奈川県(2年連続)

自分たちのリズムを作れなかった(活動報告より抜粋)

二見 元(滑川総合高校)

前半の立ち上がりは今までの中ではいいスタートを切ることができた。しかし、DFラインが下がらずでボールにプレスをかけることができなかった。ビルドアップも自陣で時間をかけすぎて単純になってしまい、相手の裏のスペースに仕掛けることができなかった。前半の決定機に得点することができなかったことで自分たちのリズムを作れなかった。失点時やゲームの流れが悪いときに適切なコーチングができなかったことも反省している。また、これまで全試合に出場してきた3選手(菊池……U-15日本代表選出、片……ケガ、野崎……体調不良)が直前で出場できなくなり、チームマネジメントも課題が残る形となった。

●女子

1回戦 埼玉県 4-0 福岡県

得点者：保坂2、窪田、堂園

準々決勝 埼玉県 1-1 新潟県

(2PK4)
得点者：若林

※ 優勝は岡山県

悔やまれるフィニッシュの精度、決定力不足(報告書より抜粋)

村松 浩(浦和レッズレディース)

初戦の福岡県はなでしこリーグ2部の福岡アンクラス中心のメンバー。45秒で先制ゴールを奪うことができ、ゲームの流れを一気に引き

寄せ、前半の12分間で4得点を奪い、勝敗を決定づけることができた。ただ、攻撃のポイントとなるプレーが少しずつ雑になり、精度を欠く場面が見受けられたことにより、追加点を奪うことなくゲームを終了した。

翌日の新潟戦は先制されたこともあり、追う立場という状況に立たされたが、焦って攻めることなく自分たちのサッカーをやり続け、61分に同点ゴールを決めると、その後延長を含め、押し気味に試合を進めることができた。だが、フィニッシュの精度、決定力不足で追加点を奪うまでには至らなかった。

連覇を目指し挑んだ大会であり、選手個々のレベル、埼玉県のチーム力からしてもその可能性は十分あっただけに、PKによる敗戦は残念な結果となってしまった。



©朝埼玉県体育協会

第4回運営会議開催 2種・3種リーグの提案

11月21日、北浦和のカルタスホールにて、第4回目となる運営会議が開催された。今回は大会整備に伴う、2種と3種のリーグ戦開催に関しての提案がなされた。第1回目でも2種のリーグ戦に関しては、横山専務理事の私案として出されたが、今回は「SFAミッション特別委員会」からの提案とされ、小林武・技術委員長がプレゼンテーションを行った（以下要旨）。

－ 例えば2種での理想型 －

●年間を通じて、「ホーム&アウェイ」

- ・ 高校とクラブの両方が参加する
- ・ できるだけ、自分たちの学校(クラブ)のグラウンドを利用する
- ・ 同時にセカンドチームのリーグ戦も行う(トップチームと同じカードで)
- ・ 1ブロック10～16チーム(18～30試合)、10～16ブロックに分かれて行う。1位チームが集まってトーナメントを戦う
- ・ 優勝チームが「高円宮杯」と「高校選手権」に出場……「高円宮杯」については、後述

※「高校選手権」は高校チームの最上位が出場 → 3位決定戦など順位決定戦も行う

●「新人戦」を改革

- ・ 高校とクラブの両方が参加する「トーナメント」で行う
- ・ 高校の1位と2位チームは「高校総体」に出場、3位と4位チームは「関東大会」に出場
- ・ クラブの上位チームは「日本クラブユース(U-18)選手権関東大会」に出場
- ・ 将来的には、プリンスリーグ出場チームもここで決める → その年の強いチームが参加する

※年間を通じてU-18リーグを経験し、かつセカンドチーム等の試合を行ってきた指導者にとって、年度末に向けて開催される新人戦こそ、その蓄積した能力を発揮する場と考える。

－ この理想を妨げる課題 －

●「高円宮杯」と「プリンスリーグ」

- ・ 「高円宮杯」(U-18)のあり方
この年代の最高峰の大会であるならば、1月～2月に開催されることが妥当ではないか
→ 少なくとも、「高校選手権」よりも後にすべきと考える
「プリンスリーグ」を設けず、47 F Aの代表チームがトーナメント(のみ)で「高円宮杯」を行う
もしくは、クラブ8チーム、高校8チーム程度でのトーナメント(のみ)で行う
→ 「プリンスリーグ」の廃止もしくは大会方式変更と「高円宮杯」の大会そのものの形態を改める
- ・ 「関東」よりも「県」大会の充実を
- ・ 「プリンスリーグ」は継続させるならば、ヨーロッパチャンピオンズリーグ方式同様、平日の夜に開催する
→ プリンスリーグに参加するチームは、週末の県リーグへの参加を必須とする。また2部制の廃止

●主要全国大会出場チームの決め方～「埼玉はこうする」

- ・ 新人戦の結果を、翌年度の大会に反映する(基本的にメンバーは同じ)
- ・ 出場までの準備期間の確保する
「高校選手権」出場チームを観ていると、11月に決まった後、12月にかけて、選手たちは急速に伸びる → 大きな目標ができ、意欲に満ちたトレーニングができるから

－ もう1案 －

●まずは高体連加盟チームのみでのリーグ戦を行う

現状として、2種クラブは3チームしかない。2種の主体は高



体連と言っても過言ではない。だからこそ、まずは高体連でスタートさせて、様子を見てクラブを受け入れていく方法を提案する。

先に提示したように、10～16チームを1ブロックとして、年間18～30試合を行う。学校開催とし、トップチームの試合とは別に、セカンドチームなどの試合も行うことを推奨する。各ブロックの1位が集まり、決勝トーナメントを行い、高校選手権の県代表を決定する。

●次に高体連上位5チームとクラブ3チームで「2種選手権大会」を開催

上記の決勝トーナメントにおいて、上位5位までを決定し、この5チームとクラブの3チームでトーナメントを行い、これを「埼玉県2種選手権大会」と称する。

12月以降にこの大会を行うことで、この年における本当の2種の勝者を決め、SFAとして讃えたい。同時に高校選手権出場チームにとっては、画期的な強化試合となることだろう。

なお、クラブ数が増えた場合は、その出場チーム数の割合と参加方法を別途検討する。基本的には、3日間、8チーム参加のトーナメントとしたい。また、決勝は埼玉スタジアム2002で行う。
※プリンスリーグが残るのであれば、この2種選手権の1位が1部、2位が2部に出場することとする(残留は認めない)。県代表がそのまま高円宮杯に出場となれば、1位が出場することとする。

－ 例えば3種での理想型 －

●県U-15リーグから県3種選手権大会(トーナメント)、そして高円宮杯へ

- ・ 中学校とクラブの両方が参加する
- ・ できるだけ、自分たちの学校(クラブ)のグラウンドを利用する
- ・ 同時にセカンドチームのリーグ戦も行う(トップチームと同じカードで)
- ・ 1ブロック12チーム(22試合)、39ブロックに分かれて行う。1位チームが集まってトーナメントを戦う → 決勝は埼玉スタジアム2002で開催
- ・ 優勝チームが「高円宮杯」に出場
中学校……「学校総体」地区予選は平日開催。週末にリーグ戦を行うことは問題なし。県大会は7月末。
クラブ……「日本クラブユース(U-15)選手権関東大会」予選は廃止し、全国大会へ(後述) → まずは、県内のリーグ戦環境を整えることが第一ではないか?

※当然ながら、全国大会の4チームリーグは廃止し、すべてトーナメントに

理想としては、4月からリーグ戦を開始し、翌年1月に県3種選手権(トーナメント)を行う。高円宮杯の関東予選は行わない。そして、高円宮杯の本大会を2月～3月へ移動することが望ましいと考える。これにより、中学3年間、最後までサッカーができる環境を作ることができる。

－ 中体連に向けて －

●なぜリーグ戦なのか？

従来のトーナメントだけの大会では、1試合負けるとそれで試合が無くなってしまふ。真剣試合を数多くこなすことが、人間としての成長にもつながると考えている。そのためには、トーナメントだけではなく、リーグ戦という方法がいいと考えている。なぜならばトーナメントは順位を決める大会方法だが、リーグ戦は人を育てる場だからだ。

年間を通じた結果で得る成果を、ぜひ体感してほしいと願っている。

●人とサッカーを育てたい

学校総体の予選次第では、15歳という伸び盛りにもかかわらず、多くの選手たちは早ければ6月末に「引退」を余儀なくされる。これが、本当の「教育」なのだろうか？

成長しようという場を取り上げてしまうことは、選択肢も与えられないということでもある。「教育者」である教職員が顧問を務める部活だからこそ、15歳の最後の最後まで、部活を行うことで生活面の安定もあり、人間教育の場を持ち続けることが大事だと考える。

●この年代に「引退」という言葉はない

ほとんど部の3年生は、夏を過ぎると「引退」となる。この年代で「引退」という言葉が使われるのは寂しいことであり、あり得ないことでもある。他の部と横並びになる必要があるのか？

サッカー部が先頭に立って「引退」を無くしてほしい。

また、受験に関しては個人の問題だと考える。受験があっても、サッカーがしたいという子供に対して、選択肢は残しておきたい。なお、受験で3年生が抜けた後は、2年生、1年生が主体となっても問題はない。

●新人戦に向けて

「3年生がいたのでは、2年生の強化ができない」。しかし、そうだろうか。個々に求めることは違えども、チームとして求めることは大きく違わないはずだ。

もしこのリーグ戦が実現されれば、セカンドチーム、サードチームの試合も同日、同会場で行うことができる。これを続けることが、「強化」になることは間違いない。

新人戦も中体連は平日も使った開催。リーグ戦開催には大きく影響ないと考える

※SFAは、U-15リーグと新人戦としてU-14リーグを同日、同会場で行えばいいと考えている

－ クラブに向けて －

●日本クラブユース(U-15)選手権大会県予選について

U-15リーグを全県で行うに際し、どのような県予選を行えばいいのか。すべてトーナメントで行えばいいと考えている。4チームリーグなどは不要である。

SFAとしては、土曜にリーグ、日曜に県予選という形にしたい。だから3種においての試合と試合の間隔は、敢えて24時間とした。基本的には土日のどちらかは休んでほしいと考えているが、予選をすべてトーナメントで行えば、試合が進むごとに、土日のどちらかが休みとなるチームが増えていくことだろう。

●埼玉県クラブユース(U-15)選手権大会について

発展的終了としたい。

他県とは異なり、秋まで活動できるようにと県独自に「埼玉県クラブユース(U-15)選手権大会」を開催してきたことについては、現状の中で「プレーヤーズ・ファースト」を考えていただいた結果だと思う。敬意を表したい。

だが、リーグ戦が始まれば、「秋までの活動」は約束される。いや、12月まで約束される。大会としての役目は終わると考えている。

－ 関東リーグについて －

●関東リーグと県リーグ

すでに関東協会主催でU-15関東リーグが開催されていることは、SFAとしても認識している。また同時に毎年のように、その

開催方法が変更されているということも認識している。まだまだ徹底されていない、変化が可能であるという認識の下、以下のよう考える。

1、U-15埼玉県リーグへの参加について

JFA主催である「高円宮杯(U-15)」に出場希望チームは、必ず県リーグに参加することとする。県内で勝ち抜いて全国大会への出場を目指すこととする。なお、この強制力は全国中体連主催の「全国中学校サッカー大会」、日本クラブユース連盟主催の「日本クラブユース(U-15)選手権大会」には及ばない。

2、関東リーグへの参加について

関東リーグはヨーロッパチャンピオンズリーグのようなものだと考えている。だから、地元の県リーグに参加し、その結果で翌年の関東リーグに参戦すべきだと考える。しかしSFAは、県リーグ出場チームに対して、関東リーグ参加を日程を配慮し奨励しない。なぜならば、関東リーグに出場するチームは、同時に県リーグにも参加することを必須とするからである。

また、関東リーグが広大な一都七県で行われて移動負担が大きいこと、SFAが考えるリーグ戦(学校を核にしたホーム&アウェイ)ではないことから、この関東リーグの存在そのものに異議を唱えたい。しかし、平日の夜に開催するのであれば、話は別である(2種プリンスリーグも同様)。

－ 全国大会について －

●高円宮杯

JFAは、これが2種、3種ともに、種別において最高の大会だと位置づけている。だからこそ、SFAとしても、この県予選をSFAの種別選手権大会とし、県内の最高の大会と位置づける。

しかしながら、最高の大会と位置づけながら、特に2種は「高校選手権」の前に行っていることによって、その価値を下けているのが現状である。また両種別とも、地域大会から全国大会につながる期間が長く、さらには全国大会の期間も長いことにより、県大会の期間が短く、選手たちの強化・育成につながっていない。

そこでSFAは提案する。この大会を最高の大会と位置づけるためにも、県内の予選は年間を通じてのリーグ戦を行った上でトーナメントを行い、その勝者を全国大会に送り出す。そのためには、

1 関東大会の廃止

※原則として1都道府県1チーム出場とする。

2 高円宮杯本大会の日程の見直し

※できるだけ年度末へ。また各連盟大会の後に設定する。

以上のことを検討し、実現すべきと考えている。選手たちには、中学、高校年代のそれぞれ3年間、しっかりサッカーと勉強に励んでほしい。それが、選手たちの人間性・社会性を育む一助となり、さらには日本サッカーの発展につながると信じている。

関係者からの質問は、従来の大会日程の問題、受験などが挙げられた。これらについては近いうちに関係種別からのヒアリングを行う予定だ。またこれらはあくまでも提案であり、決定ではない。これ以上の提案を各種別から挙がることを期待している。また、SFAミッション特別委員会でさらに検討し、現実可能と思われる案をJFAへ提案する予定にしている。さらに日本のサッカー、埼玉のサッカーをよくするために、埼玉から発信していきたいと考えている。



大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

埼玉県社会人リーグ1部

●全日程終了

順位	チーム名	勝	負	分	得失点差	勝点
1	坂戸シティー	12	2	0	+27	36
2	パイオニア川越	9	2	3	+23	30
3	飯能セボジータス	8	6	0	+4	24
4	アヴェントゥーラ川口	5	5	4	-1	19
5	FC西武台	5	5	4	-3	19
6	浦和レッズアマ	4	7	3	-19	15
7	越谷FC	2	10	2	-22	8
8	川口SC	1	9	4	-8	7

大学

埼玉県大学リーグ1部

●全日程終了

Aブロック	勝点	得点	失点	得失差	順位	Bブロック	勝点	得点	失点	得失差	順位
平成国際大	9	18	3	+15	1	城西大学	9	20	1	+19	1
埼玉県立大	6	10	8	+2	2	文教大学	6	10	7	+3	2
獨協大学	1	4	10	-6	3	埼玉工業大	3	3	14	-11	3
芝浦工業大	1	5	16	-11	4	東京理科大	0	2	15	-13	4

上位リーグ	勝点	得点	失点	得失点差	順位
文教大学	6	5	4	+1	1
城西大学	6	6	2	+4	2
平成国際大学	4	4	3	+1	3
埼玉県立大学	1	3	9	-6	4

※文教大学が25年ぶりに優勝、関東大学サッカー大会に出場。

2種・高校

第88回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会 兼 埼玉県高校サッカー選手権

8月22日～11月15日 埼玉スタジアム2002他

浦和東	0-0 PK 0-1	0	西武台	4	西武台	2-1	4	
武南	0-0 PK 4-1	2		6	正智深谷	2-0	1	
花咲徳栄	0-0 PK 1-0	0		2-0	0	県陽	0-0	0
大宮東	0-1	0		0-0	1	伊奈学園	0-0	0
本庄第一	0-0 PK 0-0	2		1-0	0	昌平	0-0	0
西武文理	0-0 PK 2-4	0		3-0	1	大宮南	0-0	1
市立浦和	0-0	0		0-2	0	川越	0-1	0
桶川	1-0	1		0-0	2	浦和南	0-0	1
	0-0	0						

※西武台高校は5年振り2度目の優勝



決勝 西武台-市立浦和



決勝 西武台-市立浦和

●総評 「西武台、5年ぶり2回目の優勝」

県高体連技術委員 山口 豊 (西武文理高校)

8月22日からスタートした「平成21年度第88回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会」は、11月15日に埼玉スタジアム2002で開催された。2年連続の出場を狙う市立浦和高校と5年ぶりの出場を狙う西武台高校の間で決勝が行われ、西武台が2-0で市立浦和を下して優勝。全国高校選手権に出場する。

2次予選以降の大会を振り返ってみると、ラウンド16で優勝候補同士である浦和東と武南が顔を合わせ、武南が姿を消す形になった以外は、ほぼ実力のあるチームが上位に進出した。

技術・戦術的に見ると、まず守備の堅さと攻守の切り替えの速さが上位に進出する条件であると思われる。攻撃面ではやみくもにノールック・ノージャッジで放り込む場面は少なくなり、全体的にはパスをつないで攻撃を組み立てようとする姿勢が見られたが、ポゼッションのみのチームと前に急ぎすぎてボールを失いやすいチームの両極端な傾向が見られた。どちらかに偏るのではなく、幅と厚みを持ったポゼッションをし、隙があれば前にボールを入れるような意図的な組み立て、つまりゴールに向かうためのポゼッションを忘れないでほしい。その面では、西武台・市立浦和は優れていたと思う。また上位に残ったチームには、ペナルティエリア内でゴールに向かう強い個性を発揮できる選手がいた。

守備面に目を向けると、全体的に個のディフェンス力が低い、また守備に人数をかけ、ブロックを形成しながらゴールを守ろうとするチームが多かったが、ただ人数を揃えているだけでボール保持者へのプレッシャーが甘く、余裕を持って攻撃される場面が多かったように思う。どこから奪いに行くのかを明確にし、後ろに無駄に余らず相手に自由を与えずに、積極的にボールを奪いに行く姿勢が欲しい。その面では西武台・市立浦和・浦和東は、奪う場所・奪い方にはっきりとした意図を感じられた。

GKに目を向けるとビルドアップへ積極的に参加する選手が増えてきたが、空いてから狙われているスペースにフィードしてしまう例も少なくなかった。

最後に西武台高校は2度目の高校選手権への出場となるが、攻撃力の高さ・前戦からのプレスの利いた守備は全国でも通用すると思う。あとはプレスをかいくぐられたときのディフェンスを改善し、活躍してくれることを期待したい。

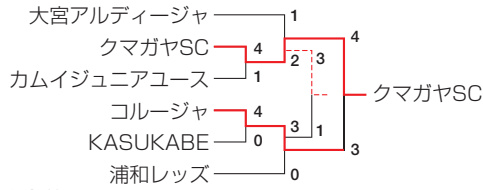
3種

第2回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ

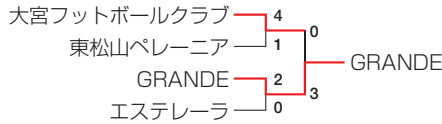
●最終結果

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	GRANDE	5	3	1	18	+17
2	FC深谷	5	1	3	16	+14
3	ディプロマッツ	4	3	2	15	+11
4	大宮FC	4	3	2	15	+8
5	狭山Jr	4	2	3	14	+7
6	武南Jr	4	1	4	13	-3
7	HAN	4	1	4	13	-3
8	草加Jr	3	1	5	10	-3
9	クマガヤSC	2	2	5	8	+5
10	常盤中学校	1	1	7	4	-53

埼玉新聞社旗争奪第18回埼玉県ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼 高円宮杯第21回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会
8月29日～10月17日



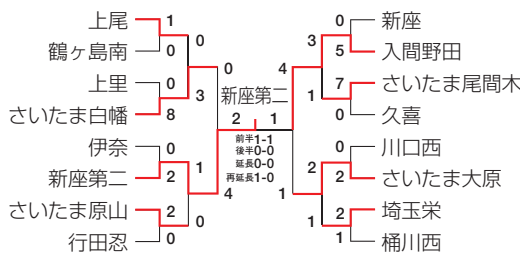
●第5代表決定戦



※優勝はクマガヤSC。第5代表までが関東大会に出場する

中学

平成21年度新人体育大会 兼 第22回県民総合体育大会 兼 第19回テレビ埼玉旗争奪サッカー大会
11月6日～15日 埼玉スタジアム2002他



※新座二中が優勝



決勝 新座第二ー入間野田

●平成21年度埼玉県中学校新人体育大会 サッカーの部を振り返って
中体連サッカー専門部技術部長 小松 工 (新都市立第五中学校)

全ての試合を観る事ができたわけではないが、大会を振り返って気になった点をあげてみたい。

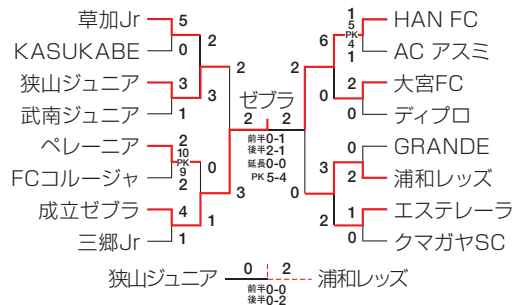
一つ目は、プレーの連続性がない事である。選手の判断が指導者の指導なのかわからないが、攻撃においてはボールをはなしたら止まってしまう関わろうとしない選手がほとんどで、数的優位をつくりだせる状況でも止まってしまうためDFの陣形が歪まない(崩れない)。結果として個を「生かす」のではなく個に「頼り」きった攻撃となり単調で得点につながらない場面が多く見られた。守備においてはボールを奪われた選手の切り替えが遅く、ポジションのバランスを崩しても自分の失ったボールを奪い返そうとするプレーがあまり見られなかった。この二つの事は、新人戦の時期だからしかたがないという問題ではない。日頃のトレーニングでこだわって(意識して)おらず習慣化されていないのだろうと強く感じ、とても驚いたとともに残念であった。

話は変わるが、この年代の課題(問題)として攻守分業制が大きく取り上げられて数年が経つ。それは、埼玉としても例外ではないのだが、いっこうに改善される気配を感じないのは私だけであろうか。ハードワークは一部の選手だけがしているというわけではない。チーム全体が攻守にアグレッシブに関わり、ピッチの端から端までをお互いが連動しながら縦横無尽に動き回る(ハードワークする)からこそ大きな意味があり、大きな力となるのだ。そういった意味では、ただ守っているだけの埼玉のDFの選手はとても楽をしている。DFの選手がハードワークではないこと、それこそが攻守分業制になっている最大の原因であり、埼玉の大きな課題なのだ。この年代のこの時期でトライもせずリスクも冒さず勝つ為だけ「や一発勝負のトーナメントだから」という理由で選手の可能性を引き出さないサッカー(指導)をしていくだけの大会になるのであれば、個人的には大会をなくしたほうが良いと思うし、大会のあり方をもっと考えていくべきだと思う。

(※以上抜粋。全文はSFAホームページからダウンロードしてください)

クラブ

第19回埼玉県クラブユース(U-15)サッカー選手権大会
9月26日～11月21日 熊谷スポーツ文化公園補助グラウンド他

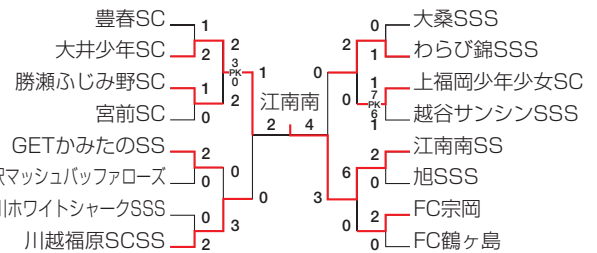


※成立ゼブラが優勝

4種

第38回埼玉県サッカー少年団中央大会

11月8日～28日 埼玉スタジアム第2グラウンド他



※江南南サッカー少年団が優勝。3連覇



決勝 江南南サッカー少年団ー大井少年SC

女子

第17回埼玉県女子サッカーリーグ1部

●全日程終了

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	武蔵丘短期大学	42	14	14	0	0	+84
2	尚美学園大学	31	14	10	1	3	+48
3	エルフェン・マリ	27	14	9	0	5	+35
4	大東文化大学・楓	22	14	7	1	6	+8
5	戸木南ボンパーズ	15	14	5	0	9	-32
6	大宮FCエンジェルス	12	14	3	3	8	-41
7	FC.JAM-G	10	14	3	1	10	-30
8	SEフィリアFC	5	14	1	2	11	-72

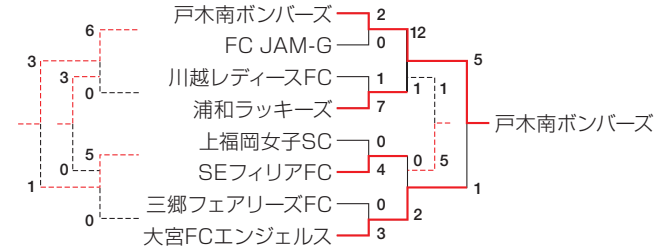
第6回埼玉県女子U-15リーグサッカー大会上位

●全日程終了

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得失差
1	浦和レッズJrユース	30	10	10	0	0	+39
2	エルフェン狭山マリ	27	10	9	0	1	+46
3	大宮エンジェルスU-15	22	10	7	1	2	+21
4	FC JAM-G	18	10	6	0	4	+10
5	戸木南ボンパーズFC	18	10	6	0	4	+7
6	白岡SCL	13	10	4	1	5	-5
7	吉見エスカーラFC	8	10	2	2	6	-17
8	越谷レディースF	7	10	2	1	7	-15
9	FC熊谷女子	7	10	2	1	7	-29
10	河内ジュベニール	6	10	1	3	6	-23
11	パシールFC	4	10	1	1	8	-34

埼玉県女子サッカー連盟30周年記念
第29回埼玉県女子サッカー大会

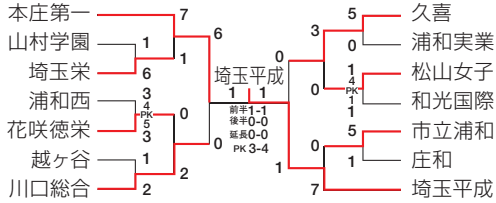
11月22日、12月6日 大島新田多目的グラウンド



※戸木南ボンバースが2連覇

平成21年度埼玉県高等学校女子サッカー選手権大会

9月12日~11月3日



3位決定戦 久喜 5-1 川口総合
5位決定戦 埼玉栄 4-0 市立浦和
7位決定戦 花咲徳栄 2-1 松山女子

※埼玉平成高校が優勝。上位5校が11月の第5回関東高等学校女子サッカー大会へ出場する



決勝 埼玉平成-本庄第一

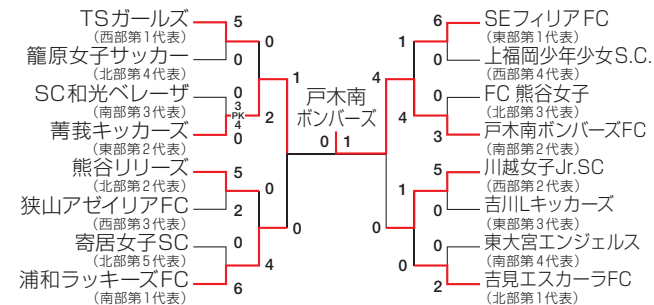
第1回埼玉県女子サッカーU-14(エイト)秋季リーグ
●第2ステージ

Aグループ	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
大宮U13アレグリア (西部地区1位)	1	2	0	+5	5	1
大宮U13コラージュ (西部地区2位)	1	2	0	+1	5	2
白岡SCL (東部地区1位)	1	1	1	±0	4	3
南部U-12トレセン	0	1	2	-6	1	4

Bグループ	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
浦和レッズJr (南部地区2位)	3	0	0	+14	9	1
大宮FCU-14 (南部地区1位)	2	0	1	+4	6	2
FC熊谷女子 (北部地区1位)	1	0	2	-1	3	3
北部U-12トレセン	0	0	3	-17	0	4

第21回埼玉県少女サッカー大会決勝トーナメント 兼
第22回関東女子サッカー大会埼玉県予選決勝トーナメント

10月17日、18日 三郷市スカイパークサッカー場



※戸木南ボンバースは2年連続8回目の優勝。準優勝の菁莪キッカーズとともに関東大会に出場する

シニア

シニア40南部リーグ

●全日程終了

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	浦和	10	4	0	34
2	東春	10	2	2	32
3	NTT	9	2	3	29
4	越谷	9	2	3	29
5	川越	8	1	5	25
6	所沢	6	5	3	23
7	新明	5	4	5	19
8	与野	5	3	6	18
9	川口	4	5	5	17
10	パルス	3	7	4	16
11	八潮	4	3	7	15
12	蕨	3	3	8	12
13	鴻巣	2	4	8	10
14	大宮	2	3	9	9
15	戸田	0	2	12	2

シニア40北部リーグ

●全日程終了

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	東松山OP	12	2	0	38
2	鳩山	9	3	2	30
3	秩父	9	3	2	30
4	本庄	9	2	3	29
5	児玉	9	2	3	29
6	行田	8	0	6	24
7	熊谷	6	5	3	23
8	深谷	3	5	6	14
9	東松山P	4	2	8	14
10	吉見	4	2	8	14
11	セントラル	3	2	9	11
12	寄居	3	2	9	11
13	小川	3	2	9	11
14	小鹿野	1	6	7	9
15	めぬま	1	4	9	7

シニア50サッカーリーグ

●9月6日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	パルス	11	2	1	35
2	本庄	10	2	2	32
3	NTT	10	2	2	32
4	浦和市高	10	1	3	31
5	川越	8	3	2	27
6	与野	6	6	2	24
7	春越	6	4	4	22
8	所沢	5	5	3	20
9	鴻巣	4	6	4	18

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
10	深谷	4	2	7	14
11	大宮	3	5	5	14
12	川口	3	5	5	14
13	熊谷	3	3	7	12
14	浦和	4	0	10	12
15	セントラル	1	6	7	9
16	蕨	2	2	9	8
17	東松山P	1	4	9	7
18	戸田	1	2	10	5

2009年度埼玉県シニア60リーグ

●全日程終了

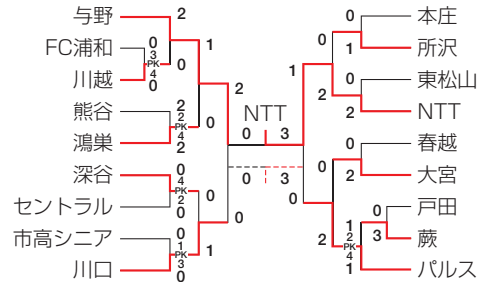
順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	パルス	9	1	2	28	+9
2	FFC	6	2	4	20	+10
3	ポラリス	3	4	5	13	-5
4	Gファイター	1	3	8	6	-14

ロイヤルリーグ

さくら 6勝4敗2分 けやき 4勝6敗2分

第7回埼玉県シニアサッカー選手権大会(O-50) 兼
第9回全国シニア関東予選埼玉県予選

8月30日、9月20日、11月22日 古河スカイG・東松山リコグラウンド



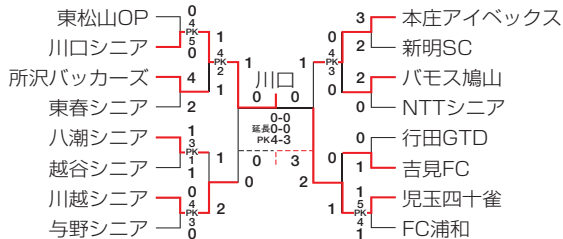
※NTTシニアが優勝



決勝 NTTシニア-与野

2009年 埼玉県総合体育大会(シニアの部) 兼 日本スポーツマスターズ(0-40)サッカー競技埼玉県予選

9月6日~11月22日 東松山リコグラウンド他



※川口シニアが優勝

フットサル

第9回埼玉県フットサルリーグ1部

●2nd 上位リーグ

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	IMPERIO	2	0	0	6	+3
2	坂戸龍門	1	0	1	3	+3
3	ロクFC	0	1	1	1	-1
4	烏天狗	0	1	1	1	-5

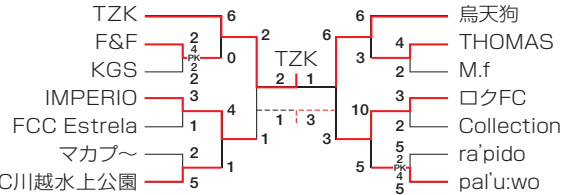
第6回埼玉県女子フットサルリーグ

●2nd 上位リーグ

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	FFC Estrela NOVO	2	0	0	6	+5
2	dolce da donna	2	0	0	6	+4
3	CHU-BAR	0	0	2	0	-4
4	武蔵浦和FC	0	0	2	0	-5

PUMA CUP 2009 第15回全日本フットサル選手権大会埼玉県大会

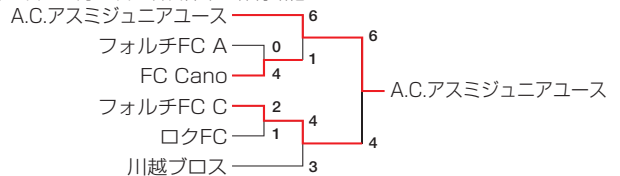
9月27日~12月12日 春日部市立体育館他



※優勝したTZKは全国大会に出場

第15回全日本ユース(U-15)フットサル選手権大会埼玉県大会

7月19日~8月30日 春日部市立体育館他



※優勝したA.C.アスミジュニアユースは、関東大会に出場

バーモンドカップ第19回全日本少年フットサル大会埼玉県大会

9月5日~10月11日 春日部市立庄和体育館他



※優勝した江南南サッカー少年団は、全国大会に出場

大会記録●県外大会(県関係抜粋)

1種・社会人

第16回クラブチームサッカー選手権関東大会

9月19日~22日 駒沢運動公園

1回戦 江南ブロッコリーズSA 0-4 S.C.相模原

※優勝はS.C.相模原

第43回関東社会人サッカー大会

11月7日~15日 蕨崎中央公園陸上競技場他

1回戦 パイオニア川越 0-2 鹿島さわやかFC

飯能セボジータス 4-0 馬来田FC

坂戸シティーFC 4-1 宇都宮FC

AVENTURA KAWAGUCHI 2-1 T.F.S.C

2回戦 飯能セボジータス 1-3 東京海上日動火災保険

坂戸シティーFC 1-1 佐川コンピュータシステム

(3PK5)

AVENTURA KAWAGUCHI 2-0 蕨崎アストロス

※優勝は佐川コンピュータシステム。AVENTURA KAWAGUCHIは2回戦終了後、失格。

第37回関東自治体職員サッカー選手権大会

10月22日~25日 市原市八幡公園八幡球技場他

2回戦 さいたま市役所 1-0 宇都宮市役所

準決勝 さいたま市役所 1-1 北杜市役所

(4PK5)

3位決定戦 さいたま市役所 3-1 川崎市役所

※優勝は東京消防庁

大学

2009年度第83回関東大学サッカーリーグ戦・2部

●第22節終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	順天堂	52	17	1	4	+40
2	拓殖	48	15	3	4	+25
3	東京学芸	46	13	7	2	+20
4	青山学院	42	12	6	4	+21
5	日本体育	38	12	2	8	+12
6	朝鮮大学	33	10	3	9	+10
7	尚美学園	27	8	3	11	-12
8	桐蔭横浜	24	6	6	10	-4
9	東京農業	22	7	1	14	-22
10	東洋	20	5	5	12	-5
11	上武	15	4	3	15	-37
12	成蹊	8	2	2	18	-48

関東大学サッカー大会

10月31日~11月22日

順位	チーム名	勝	分	負	得失点差	勝点
3	文教大学	1	0	2	+1	3

※昇格戦勝者の関東学院大学と國學院大学が関東大学リーグ2部に昇格する

2種

高円宮杯第20回全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会

9月6日~10月12日 埼玉スタジアム2002他

●グループリーグ

グループF	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
FC東京-18	2	0	1	+5	6	1
米子北高校	2	0	1	+2	6	2
浦和レッズユース	2	0	1	±0	6	3
静岡学園高校	0	0	3	-7	0	4

●決勝トーナメント

ベスト16 東京ヴェルディユース 0-1 浦和レッズユース

準々決勝 浦和レッズユース 0-2 横浜F・マリノスユース

※優勝は横浜F・マリノスユース

2009年度第13回KCYリーグ 兼 Jユースカップ予選

7月19日~11月3日 綾瀬スポーツセンター他

●1次リーグ

順位	チーム名	勝	負	分	勝点	得失差
1	ACフットロ	3	1	0	9	+3

●2次リーグ

順位	チーム名	勝	負	分	勝点	得失差
4	ACフットロ	0	2	1	1	-12

※優勝した横河武蔵野FCはJユースカップに出場。準優勝した三菱養和SCはプレーオフに出場する

3種

2009関東ユース(U-15)サッカーリーグ

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	浦和レッドダイヤモンズJY	9	2	0	29	+28
12	大宮アルディージャJY	0	3	8	3	-20

※浦和レッズジュニアユースが優勝

2009年度高円宮杯 第21回全日本ユース(U-15)選手権大会 関東大会

11月8日～15日 埼玉スタジアム第3他

- Aブロック 1回戦 浦和レッズ 3-1 ジェフ市原・千葉
クマガヤSC 3-2 前橋FC
- 準決勝 浦和レッズ 2-0 鹿島アントラーズノルデ
クマガヤSC 2-2 鹿島アントラーズ (4PK2)
- 代表決定戦 浦和レッズ 2-0 クマガヤSC
- Cブロック 1回戦 FC KASUKABE 1-3 FC古河
- Dブロック 1回戦 大宮アルディージャ 5-3 関南SC群馬
準決勝 大宮アルディージャ 0-1 ジェフ習志野
- Eブロック 1回戦 FC CORUJA 2-5 横浜F・マリノス追浜
GRANDE FC 1-2 三菱養和SC栄鴨

※浦和レッズジュニアユースが本大会に出場する

女子

プレナスなでしこリーグ

●ディビジョン1(全日程終了)

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	浦和	54	17	3	1	+42
2	ベレーザ	43	13	4	4	+28
3	マリヤゼ	38	12	2	7	+9
4	INAC	37	11	4	6	+24

【表彰】

最優秀選手賞 安藤 梢 (浦和) (2回目)

得点王 安藤 梢 (浦和) (2回目)

優勝監督賞 村松 浩 (浦和) (初)

ベストイレブン

- ・GK 山郷 のぞみ (浦和) (9回目)
- ・DF 矢野 喬子 (浦和) (3回目) 土橋 優貴 (浦和) (初)
- ・MF 庭田 亜樹子 (浦和) (初) 柳田 美幸 (浦和) (2回目)
- ・FW 安藤 梢 (浦和) (6回目) 北本 綾子 (浦和) (初)

●ディビジョン2(全日程終了)

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	AS狭山	52	17	1	3	+69
2	伊賀FC	51	17	0	4	+71
3	福岡AN	49	16	1	4	+70
4	清水第八	25	6	7	8	+7

【表彰】

最優秀選手賞 笠嶋 由恵 (狭山) (初)

第15回関東女子サッカーリーグ

●全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	早稲田大	36	12	0	2	+41
2	日テレ・メニーナ	33	11	0	3	+40
3	浦和レッズJrL	31	10	1	3	+19
4	神奈川大	24	7	3	4	+10

第5回関東高等学校女子サッカー大会

11月14日～22日 尚美学園大学サッカー場他

- 1回戦 川口総合 1-0 高崎女子 埼玉栄 2-1 成田北
埼玉平成 0-0 文京学院 久喜 5-2 湘南学院 (2PK3)
- 本庄第一 9-0 小山城南
- 2回戦 川口総合 1-8 日本航空 埼玉栄 1-3 宇都宮文星
久喜 0-2 十文字 本庄第一 2-1 幕張総合
- 準々決勝 本庄第一 2-2 晴海総合 (6PK7)

※日本航空が優勝

第22回関東少女サッカー大会

11月28日、29日 リコー東松山サッカー場

●予選リーグ

ブロック・順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失差
Aグループ・3位	戸木南ボンパースFC	0	1	1	1	-1
Dグループ・2位	菁莪キッカーズ	0	1	1	1	-2

●5～8位決定トーナメント

菁莪キッカーズ 1-2 市川FCレディース

菁莪キッカーズ 0-2 河内SCジュベニール

●9～12位決定トーナメント

戸木南ボンパース 1-0 古河なでしこFC

戸木南ボンパース 2-0 つくばFCガールズ

※菁莪キッカーズが8位、戸木南ボンパースは9位。優勝はバディFC

シニア

第5回関東シニア60・65・70サッカー埼玉大会

10月12日 熊谷文化スポーツ公園陸上競技場

- O-60 けやき 2-0 群馬 けやき 1-0 神奈川
さくら 1-2 千葉 さくら 0-1 茨城
- O-65 さくら 3-0 群馬 けやき 0-1 山梨
けやき 0-4 千葉 さくら 2-1 栃木
- O-70 埼玉 3-1 千葉 埼玉 2-0 湘南

第9回関東六十雀サッカー大会

10月31日、11月1日 那須スポーツパーク

埼玉 2-0 神奈川 埼玉 1-0 千葉

第4回関東シニアサッカー選手権(O-60)

11月14日、15日 ひたちなか総合運動公園

A組	勝	分	負	勝点	得失点差	順位
埼玉シニア60	2	1	0	7	+6	1

●順位決定戦 決勝

埼玉シニア60 3 (0-1)(3-0) 1 千葉四十雀サッカー60

第3回関東シニアサッカー選手権大会(O-50)

11月28日、29日 古河スカイグラウンド

B組	勝	分	負	勝点	得失点差	順位
NTTシニア	1	1	1	4	±0	3

※優勝はFC前橋50

第3回関東シニアサッカー選手権大会(O-40)

11月28日、29日 昭和町押原公園サッカー場

A組	勝	分	負	勝点	得失点差	順位
東松山オールスターズ	0	0	3	0	-15	4

※優勝は山梨スーパーマスターズ

フットサル

関東フットサルリーグ1部

●第14節終了時点

順位	チーム名	勝	負	分	勝点	得失点差
4	Artista 埼玉	6	5	3	21	+3

関東フットサルリーグ2部

●第13節終了時点

順位	チーム名	勝	負	分	勝点	得失点差
2	Iwatsuki Futsal Club/tzk	7	3	1	22	+20

第15回全日本ユース(U-15)フットサル大会関東大会

11月21日、22日 小瀬スポーツ公園体育館

Cブロック	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
A.Cアスミジュニアユース	1	0	1	+1	3	2

※優勝は malva mito fc

第6回全日本女子フットサル選手権大会関東大会

9月19日、20日 くまがやドーム

ブロック・順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
Aブロック・3位	FFC Estrela NOVO 埼玉	0	0	2	0	-9
Dブロック・3位	dolce da donna	0	0	2	0	-9

※優勝はFUNフットサルクラブLadies

全国ビーチサッカー大会2009 関東大会

9月5日 ひたちなか市阿字ヶ浦海岸

Dブロック	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
If.Levante	0	0	2	-13	0	3

※優勝した東京レキオスBSが全国大会へ出場

大会記録●トレセン・選抜

3種 関東U-15トレセンリーグ ●Aリーグ

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
2	埼玉県トレセン	2	0	1	6	+2

●順位決定戦 (Aリーグ2位) 埼玉県TC 2-0 千葉県TC (Bリーグ2位)

関東U-14トレセン交流戦

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
6	埼玉県トレセン	1	1	2	4	-4

関東U-13トレセン交流戦

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
5	埼玉県トレセン	1	0	3	3	-6

4種

第20回関東選抜少年サッカー大会

●予選リーグ

組・順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
3組・2位	埼玉U-12 DX	2	0	1	6	+2
6組・1位	埼玉U-12 SP	3	0	0	9	+8

●決勝リーグ

組・順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
A組・3位	埼玉U-12 DX	0	0	2	0	-8
D組・3位	埼玉U-12 SP	0	1	1	1	-1

技術委員会より

●2種・3種指導者講習会開催

12月4日、浦和東高校において、指導者としての資質向上を目指した「2種・3種指導者講習会」が開催された。2度目となる今回は中学の県総体準々決勝2試合(埼玉栄 vs 吉川東、蕨二中 vs 与野東)、高校総体2試合(浦和東 vs 久御山、浦和南 vs 草津東)、そして県高校選手権予選準決勝の2試合(西武台 vs 浦和東、市立浦和 vs 浦和南)を分析した。

3種から笹川智久・中体連技術副委員長が「プレーのスピードが遅い。考えるスピードも遅い。それは攻守において周りが見えていないからだ」と指摘。クラブとの差が大きいことから中体連でプロジェクトを立ち上げたという報告があった。

選手権予選での戦い方について、池田一義・市立浦和監督は「自分たちでボールを動かしながらのサッカーが面白くなると思う」とし、「西武台は魅力的なサッカーを目指してほしい」とエールを送った。

守屋保・西武台高校監督は「足りないところは遠慮なく言ってほしい。春先から『ボールをどう動かすのか』『ボールをいつ出すのか』などをテーマにしながら、市立浦和との試合ではキックボールになってしまった。本大会に向けては、徹底してゲームを支配できるよう取り組んでいきたい」と本大会への意気込みを語った。

相対的に、高体連ではつなぐ意識が高くなったことで「ワンプレーの時間が長くなった」と(小林武・技術委員長)という成長が感じられている。最後に野崎正治・技術副委員長からは「こだわりを持って指導すれば、イヤらしいチームになるのでは。相手から『やりたくない』と思われるようなチームになってほしい」と参加者へのアドバイスを送った。

なお、3月22日の14時から技術委員会主催で「カンファレンス(仮称)」を、東松山中央公民館にて開催する。メインテーマとは別に、今回の話も触れたいと考えている。詳細は決定次第、ホームページに掲載する。



女子

第6回関東女子U-15トレセンリーグ ●第4節終了時点

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	埼玉県トレセン	4	0	2	12	+16

第7回関東女子U-12トレセンリーグ ●第4節終了時点

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	埼玉県	4	0	0	12	+20

第14回首都圏少女交流大会

9月23日 駒沢第2球技場

1回戦 埼玉U-12トレセン 2-0 群馬トレセンU-12

準決勝 埼玉U-12トレセン 4-1 千葉フェニックス

決勝 埼玉U-12トレセン 0-1 神奈川U-12「山ゆり」(延長)

※優勝は神奈川U-12「山ゆり」

シニア

ねんりんピック北海道・札幌 2009 サッカー交流大会

9月6日、7日 札幌ドーム他

ブロック・順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
Bブロック・1位	パルスフットボールクラブ	1	2	0	5	+2
Dブロック・3位	埼玉シニア60	0	2	1	2	-1

第22回スポレク宮崎

10月17日~20日 宮崎県西都市

Gグループ	勝	分	負	得失点差	勝点	順位
埼玉シニアFC	4	0	0	+10	12	1

※埼玉はGグループで1位

フットサル

第1回全日本女子ユース(U-15)フットサル大会関東予選

11月21日、22日 小瀬スポーツ公園体育館

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	埼玉県U-15女子選抜	3	0	0	9	+12

※優勝した埼玉県U-15女子フットサル選抜チームが全国大会に出場する

審判委員会より

●「2009年度、サッカー1級審判員2名誕生」

4月から行われていた「2009年度サッカー1級審判員認定試験」において、1次、2次、そして3次試験を経て、本県より2名が1級審判員として認定されました。お二人の今後の活躍に期待いたします。

【中村 太】31歳

①経歴 / さいたま市立大宮南中学校⇒開智高等学校⇒順天堂大学⇒三郷北高等学校教諭

②審判経歴 / 2005年 2級審判員取得

③今後の抱負 / 「今回1級を取得できたのは、自分ひとりの力ではなく、これまで支えてくださった多くの方々のお陰です。特に埼玉県サッカー協会審判委員会の皆様には、審判を始めた時から、様々なサポートをしていただきました。心から感謝しています。」



【金井 清一】27歳

①経歴 / 草加市立松江中学校⇒越谷南高等学校⇒日本体育大学⇒草加市立草加中学校教諭

②審判経歴 / 2003年 2級審判員取得

③今後の抱負 / 「1級審判員として合格したことに満足するのではなく、一つでも上のカテゴリで笛を吹くことを目標に取り組みでいきたいと思っています。また、ここまで育てていただいた、関東・埼玉県サッカー協会に感謝の気持ちを持って、自分の経験してきたことを少しでも還元していきたいと考えております。」



訃報

小川永臣(ひさたか)氏 享年65歳(7月19日死去)。

電通関東サッカー部のMFとして、また監督として活躍。近年においては県社会人連盟の強化担当として、その手腕を発揮された。

高林 隆氏 享年78歳(12月27日死去)。

春日部高校から立教大学に進み、田辺製薬でも活躍。日本代表として国際Aマッチ9試合2得点。メルボルン五輪にも出場。

※ご冥福をお祈りいたします。

インフォメーション

●東松山リコー研修所宿泊について

東松山リコーグラウンドを利用される皆さんにお知らせです。宿泊される場合、部屋での喫煙は全面的に禁止となりました。ルールを守っていただきますよう、お願いします。

●「NTT関東サッカー部」創部40周年記念事業「混成スペシャルマッチ」開催

11月28日、J1最終節の試合前に、NTT関東サッカー部OB選手と大宮アルディージャOB選手による「混成スペシャルマッチ」が開催されました。

これは、電電埼玉選抜チーム(以後電電関東、NTT関東へと続く)が旧浦和市で活動し始めて40周年を記念して行われたものです。埼玉出身の元選手も多く、懐かしい顔が揃いました。



© 1998.N.O.ARDJJA

●「SFAタウンミーティング in 西部」開催

10月3日、所沢市ミューズホールにおいて、「SFAタウンミーティング in 西部」が開催された。内容は、横山専務理事からのSFAミッションの考え方と現状のプレゼンが行われた。質疑応答の後、横山専務理事から「常々、埼玉のサッカーのうねりが、総合的には西部が中心になってきていると思っている。活発であり、成果も出て、選手も出てきている。また前向きに取り組んでいただいている。このうねりを止めずに、将来の日本のサッカーはここ西部から変わらなと思っています。今後ともよろしくお願いします」との挨拶があった。今回企画していただいた西部連絡協議会・吉田英三郎会長、宮崎幹夫理事長、所沢市協会の皆さん、そしてご多忙にもかかわらずご参加いただいた皆さんに感謝を申し上げます。



今後も、タウンミーティングの開催は積極的に行っていきたいと思っています。市町協会単位、連盟単位でも構いませんので、事務局までご連絡ください。

●JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2009

11月3日、埼玉スタジアム第3グラウンドにて本年度2回目となる「JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2009」が開催されました。対象は6歳以下



写真提供：オールスポーツコミュニティ
http://allsports.jp/

編集後記

●SFA NEWSが発刊50号を迎えた。

私の手元にある資料によると、平成3年に「埼玉サッカー会報」(B5版)が発刊され、平成4年に「サッカーニュース埼玉」(A3版毎月発行)と名称変更され、現在のスタイル(A4版)は平成9年から2号からカラー刷りとなった。

協会創設が1946年であることからこれ以前にも当然広報誌が発行されていたと思われるが、残念ながら記録が見あたらない。

情報化社会にあって紙ベースでの情報発信に気後れする感もあるが、協会ホームページの速報性に対し、記録性という特性を充分生かした次の世代に実りある記録を残していきたい。(今回は広報委員長として、高橋)

●明けましておめでとうございます。今年はワ

ールドカップイヤー。日本代表の活躍に期待したいと思います。(坂庭)

●先日、日光と京都を旅行しました。どちらも修学旅行で訪れた場所……でも、それぞれの良さが今になって少しわかってきたような気がします。(こいち)

●年の瀬も迫り、慌ただしさも寒さも急増してきた気がします。流れるままに過ぎてしまったこの1年でしたが、今年は課題と反省を持って、公私共に向上できるよう「日々勉強!」として臨みたいですね。(かのう)

●ランニングをスタートして数カ月。徐々に身体が軽く感じてきて「楽しい!」という時に人生初の肉離れ……この時期のアップは入念にしましょう。(小豆澤)

●12月23日に第3回埼玉県第4種リーグ選手

下。インフルエンザの影響もあり、急遽参加できなかったチームが数チームありましたが、58チーム約1,000人の子供たちは芝生の上で元気にサッカーを楽しんでくれました。

最後に、スタッフとして手伝ってくれた埼玉県立大学サッカー部、平成国際大学サッカー部の皆さん、ありがとうございました。

●祝「埼玉県女子サッカー連盟創立30周年記念式典」開催

連盟創立30周年記念式典が12月13日(日)午後2時30分から浦和ワシントンホテルにて63名が出席して盛大に開催されました。

記念式典では、長瀬理事長の挨拶に始まり、石澤君男・故長南靖二・神山富美子氏三名に功労賞表彰が続き、東京都協会と栃木県協会的女子委員長、そしてSFA高橋事務局長の祝辞の後、懇談となりました。

連盟は1979年に5チームにより第1回大会が開催され、2年後の1981年に連盟が創立され、このたび30周年を迎えました。益々の発展を願っております。



●「2009年度JFAスポーツマネージャーズカレッジサテライト講座・SFA共同講座」「SFA公開講座」開催

SFAでは2年目を迎えるサテライト講座ですが、今年度も他県ではないSFA独自の公開講座と財務講座を加えて開催する事になりました。一人ひとりの手で、まずは埼玉からより豊かなスポーツ・社会環境を創っていきけるよう、多くの方に受講していただければ幸いです。2010年1月29日(金)までに「受講申込書」をご提出下さい。詳細については、SFAのホームページをご参照ください。

<基本講座> ●SMCサテライト講座・SFA共同講座

※SFA公開講座含む

日 程：2010年2月7日(日)・20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)

定 員：30名程度 / 受講料：42,000円(公開講座受講料含む)

<特別講座> ●SFA公開講座

日 程：2010年2月7日(日)

会 場：浦和コミュニティセンター 第15集会室(浦和パルコ9F)

テ ー マ：国内におけるサッカービジネスの現状

講 師：株式会社電通 サッカー事業局プロジェクト・マネージャー 平野 宣行氏

時 間：受付9:30～、講義10:00～(約90分間)

定 員：80名 / 受講料：2,000円 ※先着順

そ の 他：JFA公認C級指導者ライセンス保持者には、リフレクシブポイント5が付与されます。

権大会の準決勝と決勝が埼玉スタジアムで開催され、SFAスタッフは全員出勤となりました。4月にSFAに勤務してから現場での経験は初めてなので、お荷物にならないよう頑張りたいと思います。1年間の経験を持ち寄ったたくさんの方の交流を拜見できるのが楽しみです。もしかしたら2018年のワールドカップはこの子たちの中から……。 (森山)

●冬の風物詩である全国高校サッカー選手権に母校が出場しました!高校を卒業して5年が経ちますが、母校が大舞台に出場できるということはOBとして嬉しいことですね。自分も後輩に負けずに頑張ります! (佐々木)

●「今を戦えない者に次とか来年とかを言う資格はない!」ロベルト・パッジョ。資格はともかく、来年も宜しくお祈りします。(栗島)